

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成19年3月29日(2007.3.29)

【公開番号】特開2005-278911(P2005-278911A)

【公開日】平成17年10月13日(2005.10.13)

【年通号数】公開・登録公報2005-040

【出願番号】特願2004-97713(P2004-97713)

【国際特許分類】

A 6 1 J 3/00 (2006.01)

A 2 3 L 2/42 (2006.01)

A 6 1 M 1/28 (2006.01)

【F I】

A 6 1 J 3/00 3 0 0 Z

A 2 3 L 2/00 N

A 6 1 M 1/28

【手続補正書】

【提出日】平成19年2月14日(2007.2.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0002】

一般に、バッグに予め収納された液体を所望の温度に加熱し且つ保温する装置は、収納された液体の容量に応じて加熱源の面積を確保するように構成される。一方、このような装置を使用するユーザは、加熱すべきバッグの大きさに関わらず可能な限り小型化を図った装置の使用を要望している。例えば、夜間就寝時の治療で 사용되는自動腹膜透析装置（APD装置）では、透析液バッグとして一般に2000mL容量のバッグが使用される場合や、4000mL容量のバッグが使用される場合がある。この透析液バッグ内の透析液は自動腹膜透析装置の上部へ載置されて所望の温度へ加熱・保温されるが、装置の加熱装置を4000mLバッグへ合わせて設計すると装置の床面積が大きなものとなり、且つ同装置で2000mLバッグの透析液を加熱・保温する場合は被加熱物に比して大きなヒータを有することから無駄な電気エネルギーを浪費し、在宅治療で 사용되는装置としては極めて利便性の悪い装置となってしまう。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

図5は、装置1に内蔵される制御装置の概略構成を示している。同図で、501が中央演算装置、502がヒータ通電選択用の設定スイッチ、504と514が送排液制御回路、505がヒータ5の電力制御回路、506がヒータ6の電力制御回路、507が温度センサ7から入力されるセンサ信号処理回路を示している。